

研究課題 がん臨床研究に不可欠な症例登録を推進するための患者動態に関する研究

課題番号 H18-がん臨床-一般-006

主任研究者 東京大学医科学研究所探索医療ヒューマンネットワークシステム部門

上 昌広

1. 本年度の研究成果

平成19年度は3年計画の第2年目として、前年度に培った患者動態調査に関する研究手法を以下の各県で実施した。本研究には調査協力病院医師と研究者間に深い信頼関係が必要である。必ずしも全病院に対する調査は必要なく、調査協力病院医師と研究者間の信頼関係に配慮し、研究協力病院を選定した。福島県(福島県立医科大学、太田西ノ内病院、北福島医療センター、磐城共立病院、竹田総合病院)、茨城県(筑波記念病院、筑波大学附属病院、日立総合病院、茨城県立中央病院、土浦協同病院、水戸医療センター)、栃木県(自治医科大学付属病院)、鳥取県(鳥取大学病院)、島根県(島根大学医学部付属病院)、徳島県(徳島大学病院、徳島県立中央病院、徳島赤十字病院、健康保険鳴門病院、徳島市民病院、阿南共栄病院、徳島県立三好病院、徳島県立海部病院) また、複数の在宅療養支援診療所においても患者動態調査を遂行した。

研究が先行した徳島県において、紹介元医療機関に対しフィールドワークを行い、患者紹介施設選択の判断材料、その情報源、紹介先施設への要望事項などを調査した(研究者：上 昌広)。また、徳島県医師会の協力を得、地元医療機関を対象としたアンケート調査を実施した。地域中核医療機関を受診する外来患者の動態を検討するため、同県の県立病院(徳島県立中央病院、徳島県立三好病院、徳島県立海部病院)において、全診療科を対象とした患者動態調査を遂行した。これらの研究結果を第5回日本臨床腫瘍学会総会及び、第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会にて発表(研究者：上 昌広)した。

2. 前年度までの研究成果

研究第1年目においては患者動態調査の基盤となるデータ収集を重点的に行った。即ち、東京都立府中病院血液科、東京都老人医療センター血液内科、筑波記念病院血液病センター、日立総合病院血液内科にて患者動態調査のデータ収集を行った。いずれの中核医療機関も患者の約70%が同機関から半径約25キロメートル以内の地元診療圏からの患者で、我々の想定と比較して小さいことが明らかになった。これはがん拠点病院にがん診療の全てを担わせることは困難で、地域の特性を十分に考慮した上でがん診療体制を構築する必要性を示している。また、情報伝達手段の調査として、患者会及び院内フリーマガジンを通じた患者の情報収集手段の実態調査を行い関連学会で発表した。

3. 研究成果の意義および今後の発展

がんの臨床研究を推進するためには、患者登録の効率を向上させることが重要である。がん臨床研究遂行の中心的役割を果たす中核医療機関の受診者の半数以上は地元医療機関からの紹介であることを考えれば、地元医療機関と中核医療機関の有機的なネットワークを構築しなければならない。しかしながら、このような医療機関間の患者紹介の実情、およびその動態に影響する因子に関する研究は少ない。本研究は臨床試験遂行体制を構築す

る上での基盤となるデータを提供する。また単に問題点を列挙し改善方法を検討しても、実現不可能であれば単なる机上の空論に終始する。そのため提唱したネットワークモデルを実際に運用し、実現可能な方法を模索する必要がある。

本研究により患者・医療機関双方の納得が得られる患者紹介モデルが確立すれば、臨床試験の遂行のみならず、患者の医学的、社会的状態に応じ施設横断的な対応が可能となる。医療機関のネットワークで迅速な紹介対応が可能となれば、患者は適切な時期に最適な医療機関で診療を受けることができるため、医療経済の最適化に寄与する。加えて、この研究で提示運営するネットワークモデルを一般化し、医療機関相互の情報共有を推進すれば、がん治療の均てん化に貢献する。

4. 倫理面への配慮

本研究においては、人体から採取された試料は用いない。がん患者の紹介動態、治療内容、患者満足度の調査においては、患者の個人情報に接するため、個人情報保護の徹底が重要である。研究員による情報の抽出を行う際には、研究員に対して、教育・作業管理の徹底による個人情報保護、情報の漏洩防止対策を徹底する。その後集計の際に患者情報を施設外に持ち出す必要があるが、その際には匿名非連結化により個人情報を除いた情報のみを扱う。

なお、本研究は平成18年11月30日に「がん臨床研究に不可欠な症例登録を推進するための患者動態に関する研究」として東京大学医科学研究所倫理審査委員会の承認を得た。

5. 発表論文集

1. Takita M, Tanaka Y, Hamaki T, Matsumura T, Kodama Y, Nishimura T, Goto T, Nagai M, Kami M. Regional social system for specialized medical care in hematologic malignancies; a case study in Tokushima Prefecture. ,submitting
2. 関根広介, 原隆雄, 小原まみ子, 望月隆弘. 待ち行列理論を利用した患者待ち時間の分析. 医工学治療 in press
3. 瀧田盛仁、田中祐次、濱木珠恵、後藤哲也、永井雅己、上昌広. 徳島県における造血器疾患の医療体制. 第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会 2007;516(1210)
4. 瀧田盛仁、田中祐次、上昌広. 徳島県における患者動態調査 第5回日本臨床腫瘍学会学術集会 2007;410
5. 上昌広. 医療サービスと生活動線～がん治療をモデルとした新たな医療提供体制の研究～. 現場からの医療改革推進協議会シンポジウム詳録 2007;1:90-99
6. 田中祐次, 上昌広. 血液患者会を通じた患者の情報収集手段の実態調査. 医療の質・安全学会誌 2006;第1巻増補号:165
7. 松村有子, 上昌広. 院内フリーペーパー「ロハスメディカル」を用いた外来患者向け臨床試験啓蒙の研究. 臨床薬理 2006;37:S197
8. 宮腰重三郎、大田雅嗣. 高齢者に有終の美を一終末期ケアと緩和ケア 疾患別にみた終末期・緩和ケアの実際. 老年医学 2006;44 (11) 1517-1524

9. 小原まみ子. 【透析医療におけるガイドライン 現状と今後の方向性】 わが国のこれからのガイドライン作成への期待 私的ガイドライン案 末期腎不全とmodality selection. 臨床透析 2006;22(7):1000-1007

6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③最終卒業学校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属施設及び現在の専門（研究実施場所）	⑤所属施設における職名
上 昌広	患者紹介動態研究（総括）	東京大学・平成5年・医学博士・血液腫瘍内科学	東京大学医科学研究所（探索医療ヒューマンネットワークシステム部門） 医療ガバナンス	客員准教授
林 邦雄	血液疾患の診療体制の未来像を科学的に描くための疫学研究	大阪大学・昭和55年卒・医学博士・精神医学	京阪奈病院 血液内科	医員
宮腰重三郎	高齢者の在宅医療研究	聖マリアノ医科大学・昭和59年卒・医学博士・血液学	東京都老人医療センター 血液内科	医長
小松恒彦	患者動態の医療経済学研究	筑波大学・昭和63年卒・医学博士・血液学	筑波記念病院 血液内科	科長
小原まみ子	透析患者におけるリテラシー研究	金沢大学・平成元年卒・医学博士・内科学・腎臓学	亀田総合病院 腎臓内科	部長
川越正平	在宅医観点のがん患者診療の研究	東京医科歯科大学・平成3年卒・血液学	あおぞら診療所 総合診療内科	所長
中村利仁	在宅医療の医療経済解析	北海道大学・平成3年卒・公衆衛生学	北海道大学 医療システム学	助手
山口拓洋	データ管理 統計解析	東京大学・平成6年卒・保健学博士・保健学	東京大学医学部附属病院 臨床試験データ管理学	客員准教授
小林一彦	がん患者リテラシー向上の研究	久留米大学・平成6年卒・医学博士・腫瘍学	JR東京総合病院 血液内科	医長
竹内賢吾	医療施設間情報伝達手段の実態調査	東京大学・平成8年卒・医学博士・病理学	癌研究所附属病院 病理部	研究員
松村有子	医療施設間情報伝達手段の実態調査	東京大学・平成8年卒・医学博士・血液学	東京大学医科学研究所(探索医療ヒューマンネットワークシステム部門) 医療ガバナンス	助教
濱木珠恵	研究統括補佐	北海道大学・平成9年卒・血液学	東京都立府中病院 輸血科	医員